

### 平成 28 年度 第 3 回 PF-UA 幹事会議事録

**日時:**平成 29 年 1 月 8 日 10:40 ~ 12:05

**場所:**神戸芸術センター F 会場 (会議室 504)

**出席者:**平井光博 (会長), 近藤寛 (庶務), 清水敏之 (行事), 植草秀裕 (行事・書記), 朝倉清高 (戦略・将来計画), 米山明男 (共同利用), 片山真祥 (編集), 木村千里, 佐藤衛, 村上洋一, 船守展正

- ・会長挨拶 (平井光博会長)
- ・施設報告 (村上洋一施設長)  
共同利用関係, 運転関係, 共同利用関係, 将来計画関係の報告があった。
- ・KEK 放射光検討委員会について (平井光博会長)
- ・運営形態検討委員会報告 (佐藤衛 委員長)
- ・ビームライン検討委員会報告 (近藤寛 庶務幹事)
- ・ビーム利用検討委員会報告 (近藤寛 委員長)
- ・量子ビームサイエンスフェスタの予定について (清水敏之 行事幹事)  
2017 年 3 月 14-15 日つくばエポカルで開催, 2017 年度は 3 月 2-4 日に茨城県立県民文化センターで行う。
- ・次期会長推薦について (平井会長)  
H30-H32 年度会長候補として, 運営委員会から清水敏之先生が会長候補として推薦された。会長選挙に関する会則・細則の改定案が提案され承認された。

### 平成 28 年度 PF-UA の集い議事録

**日時:**平成 29 年 1 月 8 日 12:20 ~ 13:30

**場所:**神戸芸術センター D 会場 (プロコフィエフホール)

- ・会長挨拶 (平井光博会長)
- ・施設報告 (村上洋一 施設長)

共同利用関係として, 予算, 運転時間, G 型課題申請数の推移が紹介された。運転関係として, 今年度第 3 期予定, 次年度の運転計画が紹介された。次年度は SuperKEKB 工事関連で 5 ヶ月の連続した休止期間があり, 残りの 7 ヶ月で約 3000 時間運転を目指す。産業を含めた施設利用 (有償利用) 制度が新設され, 試行, 利用支援, 代行測定・解析の 3 種類がある。共同利用関係として, BL-4A ユーザーグループ運営の継続, BL-14 の修理による休止 (2017 年 11 月まで) が報告された。

将来計画として, KEK 放射光計画の進捗状況の説明があった。CDR (Conceptual Design Report) version 1 についてご意見・提案を募集している。

第 2 回 KEK 放射光ワークショップ (3 月 13 日午後) は量子ビームサイエンスフェスタのサテライトミーティン

グとして行われる。KEK-LS Machine Advisory Committee (MAC) は 4 月 5, 6 日に KEK で開催され, 技術評価を行うことが紹介された。

議論として, 有償利用に使われる時間の割合が全体の 20% を超えないこと, 予算額の内訳の提示方法改善の提案がなされた。

- ・KEK 放射光検討委員会について (平井光博会長)  
KEK 放射光検討委員会の構成とミッション, 今年度の PF-UA の取り組み, 推進体制の紹介があった。
- ・運営形態検討委員会報告 (佐藤衛 委員長)  
CDR ができるまでの取り組みの経緯と基本になる考え方, 議論の方向性を紹介した。
- ・ビームライン検討委員会 (近藤寛 庶務幹事)  
現在の状況を報告した。CDR のドラフトについてコメントし回答を得た。また, CDR version 1 に反映させた。
- ・ビーム利用検討委員会 (近藤寛 委員長)  
ミッションの紹介に続き, 今後のスケジュールを報告した。今後, CDR version 2 に向けて作業を行う。1 月末を締め切りにサイエンスケースの一般募集を行っている。第 2 回 KEK 放射光ワークショップについて紹介があった。
- ・量子ビームサイエンスフェスタの予定について (清水敏之 行事幹事)  
2017 年 3 月 14-15 日につくばエポカルで開催する。3 月 13 日に第 2 回 KEK 放射光ワークショップと UG ミーティングを行う。2017 年度は 3 月 2-4 日に茨城県立県民文化センター (水戸市) で行う。
- ・次期会長推薦について (平井光博会長)

H30-H32 年度会長候補として, 運営委員会から清水敏之先生が会長候補として推薦された。候補者が 1 名であるので, 信任投票を行う。会長選挙に関する会則・細則の改定案が紹介された。

- ・その他

KEK 放射光の実現に向けたスケジュールについて質問があり, 2017 年度には実証実験 R&D が予定されている。大型施設の実現には, 様々な要素があるのでチャンスにすぐ対応できるようにしっかり準備を行う必要があると回答があった。また, 大学共同利用のあり方についても議論があることが紹介された。ERL の総括を生かしてスケジュール問題が生じないようにすべきという意見があった。

学術会議のマスタープランに入れるように対応する必要があるのではないかという質問に対し, マスタープランは改訂があるので, 伝統のある PF を拠点とした発展が反映されることが望ましいという意見があった。先行している SLiT-J にアウトステーションを提案し, 腕を磨く必要があるのではないかという意見があった。また, KEK 放射光の R&D 項目は今後のすべての放射光施設で必要になるもので, これを all Japan でやってゆくことを提案していきたいとの回答があった。